

第4回姫路市北部農山村地域活性化基本計画策定検討会での意見要旨

項目	内容
現況について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6頁の地図が見にくいいため、もう少し大きくするなど修正をお願いする。 ・ 7頁の経営耕地面積の減少や耕作放棄地の増加は実際よりも多く感じる。出典は何か。 ・ 出典は農林業センサスである。すべてのグラフに出典を明記する。 ・ 8頁に「安富町においては、専業農家の割合が高くなっている」とあるが、市と比較して割合が高いだけであり、専業農家が増えているととらえられかねないので、表現を変更した方がよい。 ・ 10、11頁に地域資源があるが、自生している、また特徴ある植物をいかにPRしていくかが大事である。隠れた資源を表に出す工夫があれば魅力が増すと考える。例えば、雪彦山にアカヤシオという貴重な植物があり、公表してPRすべきである。 ・ 植物などは公にすると荒れてしまう可能性もある。「公表しない」選択をしている地域もあり、自然の保全と活用のバランスを地域で議論していく必要がある。。
課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 14頁(1) 担い手不足について、「移住者が集落に溶け込むことができるよう、受け入れ体制を構築することが必要」とあるが、農業の担い手不足に対しては、「新規就農者や集落営農及び担い手の育成が急務」などの表現の方がよいのではないか。 ・ 14頁(5) 空き家の増加について、「美しい農山村景観を阻害する要因」との文言が断定的すぎる。建物の状況によっても位置づけは変わると考えられるので、「地域づくりにおいて問題になる」程度の書き方に変更すべきである。
基本計画(案)について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 16頁に、計画期間として、短期5年、中期10年と記載があり、21頁以降の施策の展開方向にも、施策ごとに短期、中期、長期に矢印が記載されている。矢印は短期、中期、長期ごとに区切られているが、5年ごとに見直すということか。 ・ 5年ごとに施策を見直すということではなく、継続して取り組むことを考えている。 ・ 22頁に「核となる担い手の連携」とあるが、担い手の連携という点では、地域の担い手が集まる場や機会があると動きやすい。旧安富町・夢前町のときにはそういった場があった。市や県、農協などで別々に機会を設けてくれているが、それらをまとめた場や機会を創出する取り組みがあると良い。 ・ 23頁に「ライフスタイル」という記載があるが、田舎だからこそ目指せるライフスタイルを前面に押し出すべきである。 ・ 24頁の「姫そだちブランドの農産物」に関しては、農協と連携してタマネギやジャガイモの栽培に取り組み、供給量を増やすことで、市内の学校給食にも提供することが可能であると考えており、それを北部の魅力として発信していけないか。 ・ 地産地消の課題としては、他で仕入れた方が安いこと、地元のものを使うと供給が追い付かなくなるなどがあげられる。 ・ 43頁に「伝統野菜の発掘」とあるが、具体的にどのような伝統野菜があり、どう活用していくイメージなのか。例えば大分県や滋賀県ではサフランの栽培に取り組ん

	<p>でおり、1つの品目に決めると連鎖的に産業が発展していく。具体的な品目を1つ決めて取り組んだ方が産業に発展しやすいのではないか。</p>
<p>バイオマスの利用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスの文言が度々出てくるが、姫路市内にチップ工場があり、連携・協力してバイオマスエネルギーの利用を促進するような具体的な取り組みがあるのか。 ・木質チップの工場は市内にはなく、現在は市外の工場に間伐材を持って行っている状況であるが、環境保全のためにも重要な取り組みであるので記載している。 ・ペレットストーブ導入の補助があり、設置したものの、市内ではペレットを製造、販売しておらず供給体制が弱い。 ・朝来市や赤穂市のバイオマス発電施設に、間伐材を持って行っているが、チップ化は市内でするなど差別化が必要である。 ・神戸市では薪ストーブ設置の補助金があり、市としての方針を示している。また明石城のある明石公園でも園内で伐採した丸太を配っているがすぐに無くなる。バイオマスの利用は長期的な取り組みとなるが、欲しているユーザーはいると思う。しかし、他地域では、既にバイオマスの具体的な事業に取り組んでおり、スピード感が必要ではないか。 ・環境部局の再生可能エネルギーの助成制度など、関連部局との連携も検討してほしい。 ・44頁のアクションプログラムにも関連して、木の駅プロジェクトなどの取り組みを進めていきたい。 ・今回の取り組みが起爆剤となって、バイオマスや再生可能エネルギーの取組が活発化すれば良い。
<p>観光について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夢街道づくりでは、毎月1回集まって取り組みについて議論を進めている。この計画策定を機に、北部に観光協会を立ち上げる動きにはならないか。 ・ある漫画原作者に2日間夢前へ来てもらったところ、8月に地元ゆかりの登場人物を主人公にした漫画を描くという話になった。現在も観光コンベンションに問い合わせがあるため、情報発信が必要である。 ・漫画に取り上げられると、聖地巡礼の観光客が押し寄せる。このようなコンテンツツーリズムは大いに利用すべきである。 ・観光は姫路市北部単体の点では動かないため、広く面的に動く必要がある。 ・山崎町にある6mの信楽焼のたぬきを引取る話がある。夢前スマートICの下にあるパーキングエリアに設置できないか、北部道路事務所長に頼んでいるところである。
<p>企業との連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夢前町には多くの企業があり、それらが地域を支えているので、企業との連携についても触れてほしい。 ・夢前では大区画化の事業を進めており、それをきっかけに、鳥取大学やNTT西日本と連携して防犯・防災も含めた取り組みを進めている。モデル地区をつくると周辺にも好影響があるのではないか。 ・農山村地域に興味を持つ企業が多くあるので、そのような企業との連携を明記すべきである。企業が何を求めているのか、地域が何を売り出せるのか、企業と地域

	<p>とをマッチングさせるのが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・37 頁の「雪彦山の登山需要への対応」について、「連携が期待される」という表現は、他力本願で積極性のない印象を受ける。アウトドア専門店などに働きかけを行い、山の麓に支店を出してもらうなどはできないのか。 ・企業だけでなく、大学連携を進めている地域も多い。大学との連携も進めてはどうか。
拠点整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点整備については、夢前町の前之庄にある産業廃棄物最終処分場の予定地となっていた土地について、市で買い上げていただいた後、豊かな自然をそのまま残し、1年を通じ四季を楽しめる公園機能を有した北部農山村の拠点にしてほしい。散策路や色々な体験ができる空間づくりも求める。 ・夢前スマート IC 周辺に拠点を置く案があるが、計画を見るだけでは想像が出来ない。より具体的に表記すべきである。 ・基本的考え方として、他の地域が持っている良いところと足りないところを、お互いが補えるような取組が必要である。市内だけでなく、播磨圏域も含め、他地域と連携する視点が重要である。その視点を持つと拠点に必要と考えられる機能も変わってくる。
推進体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域だけでなく、「市全体が関わっている」というような表現を盛り込めないか。山から海へのつながりが大事と言われるが理解されない。この計画がどういった形で市全体に波及するのかを姫路市民にも理解してもらう必要がある。 ・43 頁に「プラットホームを設置」という表現があり、これは人が集まる場・機会のことだと思うが、拠点や空間ととらえられることもあるので、わかるように記載してもらえると良い。 ・アクションプランの中で具体的に動き出す取り組みがあれば、それを支えるような形の計画でありたい。 ・姫路城マラソンなど、地域で共通の目標を持ち、地域を挙げて取り組めば活性化につながる。しかし、核となる者が少ないので、やる気のある人材育成に注力すべきである。 ・地域全体をコーディネートすることが求められるが、主体が様々で、誰がコーディネートするのが課題である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・安富町の農業は兼業農家が支えてきたが、高齢化が進んでおり、条件不利地域の農業を支援する取組が益々必要となっている。 ・ドローンの活用を特区申請などして推進するべきである。担い手の育成が間に合わなくとも、AIやITで賄える時代がくる。 ・人口増加には、若い世代を取り込む必要がある。20代、30代が住みたいと思うビジュアルが必要である。 ・北部農山村地域で生まれ、住み続けている人は、地域の良さに気付きにくい。若い人が住みたい地域となるためには、外から来た人の意見を聞くことも大切である。